

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

八百津町地域公共交通会議 (岐阜県八百津町)

平成30年 3月23日設置

令和 元年 6月26日 八百津町地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成30年6月～令和7年3月)

【本計画延長の経緯について】

本計画は、当初平成30年6月～令和5年3月の5年間であったが、名鉄広見線の存廃の問題があったため、その結論を待って次期計画へ更新したいことから、2年間延長し令和7年3月までの7ヵ年計画とした。また、令和6・7年度に、みのかも定住自立圏（美濃加茂市・加茂郡）で圏域の地域公共交通の現状及び課題解決に向けた基本構想を策定することから、その結果も踏まえ計画を更新することとしたため。なお、名鉄広見線の存廃は、令和7年6月を目途に結論がでます。次期計画は、可児市や御嵩町、みのかも定住自立圏など、近隣市町村と連携した計画に更新予定としている。

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

【地域の概要や特性】

- 人口 10,191人 (R5.11.30時点)
- 総面積 128.79km²：標高差500m以上の平野部と山間部からなり、山林が80%の面積を占める。
- 観光資源 杉原千畝記念館、岐阜バンジー、丸山ダム
- 交通特性 鉄道、ICは無い。東西に国道418号、南北に県道83号多治見白川線が通じている。自主運行バス（定時定路線2事業者、デマンド（交通空白地有償運送））のほか、路線バス事業者1社、タクシー事業者1社が営業している。

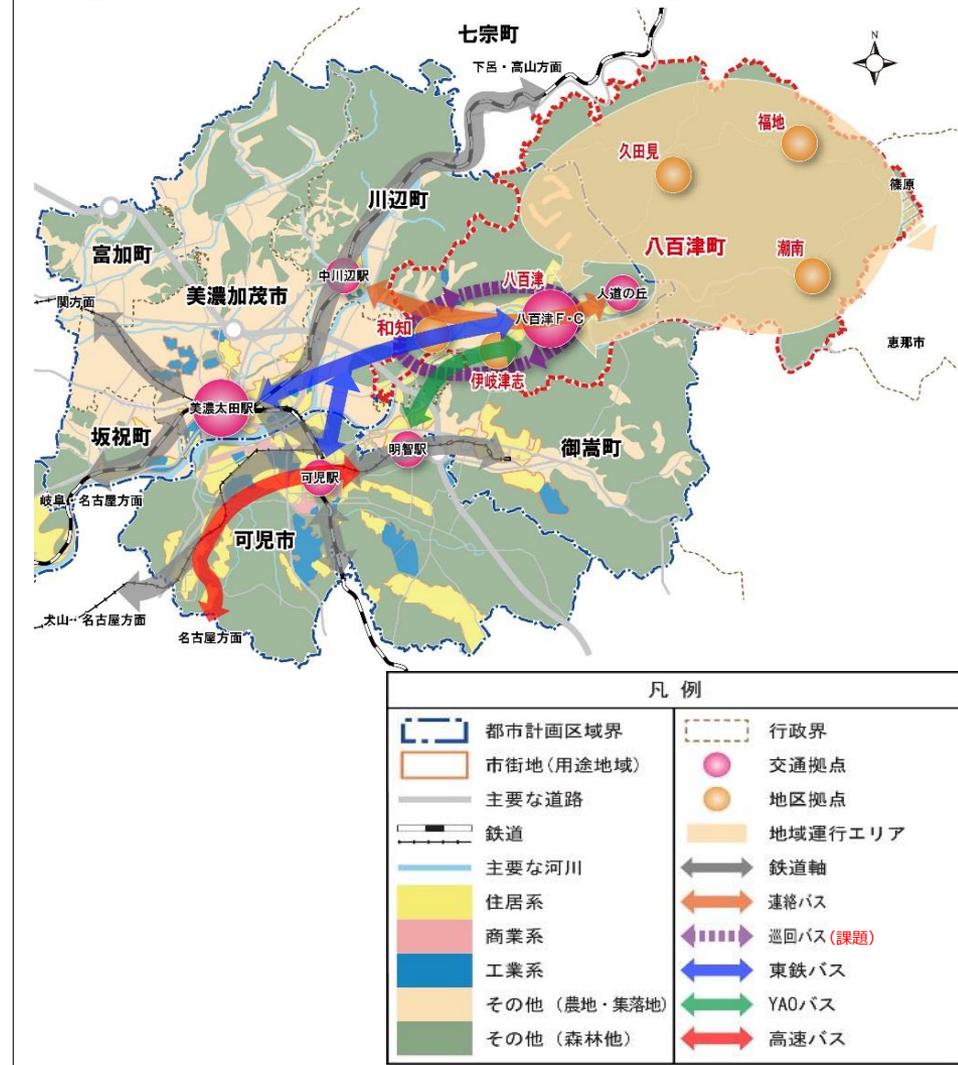
○町外への接続

- 可児市・・・YAOバス
- 美濃加茂市・・・東鉄バス八百津線
- 川辺町・・・やおまる西部

【公共交通網形成計画の目標と方針】

- 1) 基本理念
みんなで支えて 未来へつなげる やおつの地域公共交通
- 2) 基本方針
 - ・誰もが「使える」地域公共交通網をつくります
 - ・将来にわたって「維持できる」地域公共交通網をつくります
 - ・みんなで「支える」地域公共交通網の仕組みをつくります
- 3) 目標
 - ①利便性の高い公共交通網の構築
 - ②情報提供による公共交通のわかりやすさの向上
 - ③安心・安全で利用しやすい車両・施設の設備
 - ④まちづくりを踏まえた公共交通網の形成
 - ⑤観光来訪者が利用しやすい公共交通網の形成
 - ⑥公共交通の利用促進
 - ⑦運行経費の削減
 - ⑧適切な料金体系の確立
 - ⑨運転手の確保
 - ⑩収入の確保
 - ⑪地域で交通を考える・支える体制づくり
 - ⑫地域の商業施設等との連携
 - ⑬福祉、教育、NPOなどと連携
 - ⑭地域、交通事業者、行政の連携、役割の明確化

【八百津町の公共交通イメージ】



2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組（1/2）

■運行形態の維持・見直し

令和2年10月から自主運行バス・コミュニティバス802を、八百津町西部地区（八百津地区・和知地区）ではやおまる西部（定時定路線）、東部地区（久田見地区・福地地区・潮南地区・八百津地区北部東部）では交通空白地有償運送・やおまる東部（デマンド交通）に切り替え、運行を開始した。

令和3年4月から東鉄バス八百津線の運行を維持・継続するため、運行経費負担に関する協定を結んだ。

【主な取り組み】

●やおまる東部（デマンド交通）

令和元年 9月 地区協議会の設立。

令和 2年10月 試行運行開始。

令和 3年 4月 本格運行開始。運行時間帯を午前6時～午後7時に見直し、休日のイベント開催時も特別運行日とした。

令和 4年 8月 地区協議会から土曜日運行の要望があり、土曜日運行を開始。また、イベント、選挙投票日など町が指定する特定日も運行も実施することとした。

効果・考察 デマンド交通とし、地元の要望通りの運行としたことで、自宅の近くで自分の好きな時間帯に利用できることが好評で、年々利用者は増加している。

●やおまる西部（定時定路線）

令和 2年 9月 運行形態の変更についての説明会を開催。

効果・考察 以前の運行よりフリー乗降（運行経路上であればバス停以外でも乗降することが出来る）方式であったが、説明会にて再度周知した。知らなかった人も多く、再編時の利用者増加につながった。

●東鉄バス八百津線

令和 2年 3月 東濃鉄道(株)より八百津線（美濃太田駅～八百津町 F C間）の廃線の申し出。

令和 3年 3月 令和3年4月から運行経費負担を開始し、路線の維持協定を結ぶ。

効果・考察 美濃加茂市の高校や中部国際医療センター、また、八百津高校への移動通学手段として維持できた。運行継続には事業者への負担金が必要であるため、美濃加茂市と協議し負担金割合や運行形態の見直しをすすめる必要がある。

【実績】（利用者）

年 度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
YAOバス利用	87,181	73,794	71,232	51,602	49,159	48,579	46,365
コミュニティバス802	10,548	10,760	10,251	7,607	—	—	—
やおまる西部（定時定路線）	—	—	—	—	2,244	2,619	2,465
やおまる東部（デマンド交通）	—	—	—	—	6,708	7,396	10,460
東鉄バス八百津線	19,532	15,518	11,952	8,895	6,961	7,150	8,160
合 計	117,261	100,072	93,435	68,104	65,072	65,744	67,630

2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 (2/2)

■近隣市町と連携強化

取組概要	実施結果	実施結果の考察																		
<p>●可児市方面 3市町（可児市・御嵩町・八百津町）のイベントの観光イベント時にYAOバス無料デーを実施。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>イベント開催市町</th> <th>明智駅⇄八百津町 F C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月5日</td> <td></td> <td>(→)36人・59人(←)</td> </tr> <tr> <td>10月6日</td> <td>可児市</td> <td>44人・49人</td> </tr> <tr> <td>10月19日</td> <td>御嵩町</td> <td>26人・31人</td> </tr> <tr> <td>11月9日</td> <td>八百津町</td> <td>78人・75人</td> </tr> <tr> <td>11月10日</td> <td>八百津町</td> <td>59人・74人</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	イベント開催市町	明智駅⇄八百津町 F C	10月5日		(→)36人・59人(←)	10月6日	可児市	44人・49人	10月19日	御嵩町	26人・31人	11月9日	八百津町	78人・75人	11月10日	八百津町	59人・74人	<p>通常日各方面平均25人のところ、無料デーでは左記の利用があった。 YAOバス無料デーは初めての試み。「無料」であったため、通常より多くの方に利用していただけた。バスや公共交通に対する意識・認知度の向上に繋がることを期待する。</p>
実施日	イベント開催市町	明智駅⇄八百津町 F C																		
10月5日		(→)36人・59人(←)																		
10月6日	可児市	44人・49人																		
10月19日	御嵩町	26人・31人																		
11月9日	八百津町	78人・75人																		
11月10日	八百津町	59人・74人																		
<p>●美濃加茂市方面 移動手段の維持及びみのかも定住自立圏域での移動手段の把握と基本構想の策定参画。</p>	<p>主要駅・美濃太田駅と総合病院・中部国際医療センターへのアクセス手段が維持できた。 圏域で実施する調査及び基本構想策定事業に参画することで、町民及び圏域住民など利用者のニーズを把握する機会を得た。</p>	<p>当町と美濃加茂市を結ぶ路線を維持できたが、利用者数は減少傾向である。乗り入れ先の公共交通担当や交通事業者と協議を重ね、維持に努めていく。</p>																		

■公共交通に対する意識改革

取組概要	実施結果	実施結果の考察
<p>バス待ち環境の改善に取り組むため、イベント開催中にバス停の製作・披露を実施。</p>	<p>イベント：第43回八百津町産業文化祭 と き：令和6年11月 9日（土） 9：00～15：30 10日（日） 9：00～14：30 内 容：町の一大イベントの中心場所で、地元大工がバス待合所製作を披露。その後大勢の前で贈呈式を実施。</p>	<p>地元の木材を使い、地元大工が伝統工法でバス停を製作。大工の仕事や伝統工法と町地域公共交通のPRをする思惑が一致。住民参加型のイベントにしたため、多くの方に目を留めていただけた。 バス停は、YAOバス「港町」バス停に設置。部活動帰りでバス待つ八百津高校生の利用頻度が増えた。</p>
	 	

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

■基本目標1：誰もが「使える」地域公共交通網をつくります

目標指標	基準値（策定時）	目標値	達成状況	判定
バスの満足度（総合評価）が「普通」「概ね満足」「満足」と答えた人の割合	60.8%	70%以上	2019年～2023年の5年計画を、2023年に2年間延長し2019年～2025年の7年計画とした。 バスの満足度調査は、2025年に実施予定。	－

考察： 次回の調査は2025年に実施予定。次期公共交通計画策定や、町民のニーズを把握し、路線や運行形態の見直しに生かしたい。

■基本目標2：将来にわたって「維持できる」地域公共交通網をつくります

目標指標	基準値（策定時）	目標値	達成状況	判定
公共交通への町負担額	76百万円	87百万円	84百万円	○

考察： 令和5年度の公共交通維持に対する経費。YAOバス 3,724万円、やおまる西部（定時定路線）2,199万円、やおまる東部（デマンド）1,676万円、東鉄バス八百津線 462万円、無料観光シャトルタクシー 357万円。
2021年より東鉄バス八百津線の運行継続に伴う経費負担金の発生や、エネルギーの高騰、物価、人件費の増加で運行経費の増加は致し方ないが、利用者数の減少もあり1人当たりの輸送費は高額になっている。

■基本目標3：みんなで「支える」地域公共交通の仕組みをつくります

目標指標	基準値（策定時）	目標値	達成状況	判定
町内で運行するバスの利用者数	約102,000人	維持	67,630人（利用者数大幅に減）	×

考察： 特に高校生通学利用者が大幅に減ったことで、目標達成は困難。運行便数減少に伴う美濃加茂市方面へ通う町内の高校生利用、八百津高校の生徒数減少に伴うYAOバス利用者の減少が要因である。目標達成は困難。次期計画では目標値を修正する。
《八百津高校の全校生徒数の推移》

年度	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
生徒数	348人	351人	355人	348人	292人	269人	197人	211人

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

■基本目標1：誰もが「使える」地域公共交通網をつくります

【到達状況】

アンケートの集計・分析が全て終了していないため、判定を「-」としている。

ただし、公共交通部局での満足度調査は実施していないが、他部局が実施した「まちづくりに関するアンケート調査」結果では、公共交通に対する満足度・重要度は、「不満である」「重要である」という意見が多かった。

【今後の取組方針】

交通空白地有償運送のやおまる東部など、一定の成果・評価を得ている移動手段はある。しかしながら、地区によっては、目的地に（早く、乗り換えが必要）行くことができないなど改善の要望がある。町内の交通網の見直しも必要であるが、町外にある主要駅や大型ショッピングセンターなどを結ぶ交通網への期待も大きい。また、高校生の通学しやすい交通網の整備も検討していく必要がある。

近隣市町の公共交通部局や交通事業者、公共交通会議、地区協議会との情報共有を図り、現状にマッチした交通ネットワークの形成を図りたい。

■基本目標2：将来にわたって「維持できる」地域公共交通網をつくります

【到達状況】

令和6年2月に「地域公共交通網形成計画」を一旦評価し、期間を2年延長した。その際、東鉄バス八百津線の運行負担金の開始や原油価格や人件費の上昇等もあり、町が負担できる公共交通に対する上限額を「82百万円」から「87百万円」に見直した。

公共交通への町負担額は範囲内であるため、判定は「○」とする。

【今後の取組方針】

人口減少、高校生の通学利用減少、コロナウイルスの影響により利用者数は減少。名鉄広見線の問題もあるが、町民のニーズは名鉄明智駅より主要駅である可児駅・新可児駅に接続することを強く望んでいる。次期計画では、路線の見直しや運行形態の見直し等を行い、今より効果的な交通網となる様取り組み、利用者数を回復させることで町の費用負担の抑制を図る。

■基本目標3：みんなで「支える」地域公共交通の仕組みをつくります

【到達状況】

「現状維持」の目標達成は困難であるため、判定は「×」とする。

【今後の取組方針】

毎日利用が期待できる高校生が減少、また、町人口の減少に伴い利用者も減少しており、計画期間中に目標を達成することはできない見込み。

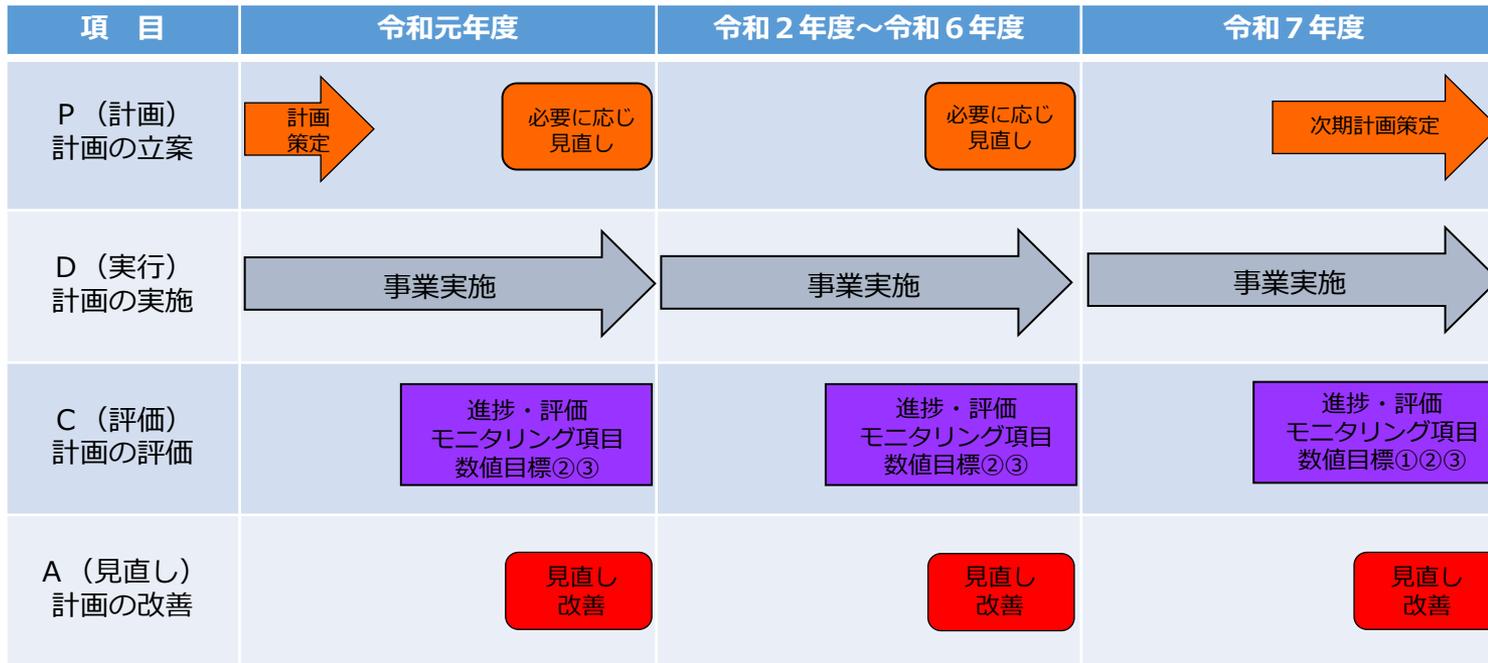
「まちづくりに関するアンケート調査」から、町民は現在の公共交通網を満足していないという結果を得ている。名鉄広見線の問題はあるが、町民の町外への移動ニーズは名鉄明智駅より主要駅である可児駅・新可児駅であり、町内の移動手段はデマンド運行の要望もあることから、次期計画では、路線や運行形態の見直しを行う予定、利用者数の回復に努める。

なお、引き続き、町民の公共交通に対する意識の向上を図るため、地域や近隣市町のイベントを中心に乗車無料デーの実施やバスの乗り方講座を実施していく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
	<div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; display: inline-block;"> 直近2年間の二次評価がないため未記載 </div>		
前々回			

※前回：○年○月○日、前々回：○年○月○日

■計画における事業実施スケジュール



■八百津町地域公共交通会議の実施状況

●令和5年度

令和5年8月23日 第1回八百津町地域公共交通会議
 主な議題：地域公共交通網形成計画の計画期間延長（審議）について

令和6年2月26日 第2回八百津町地域公共交通会議
 主な議題：地域公共交通網形成計画の一部改正及び洞地区シャトルタクシーの試験運行開始について

●令和6年度

令和6年7月29日 第1回八百津町地域公共交通会議
 主な議題：令和6年度実施事業について

令和7年3月 2日 第2回八百津町地域公共交通会議（予定）
 主な議題：杉原千畝記念館観光シャトルタクシーの経路変更について

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

八百津町（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（5年4月～6年12月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
①利便性の高い公共交通網の構築 ②情報提供による公共交通のわかりやすさの向上 ③安心・安全で利用しやすい車両・施設の整備 ④まちづくりを踏まえた公共交通網の形成 ⑤観光来訪者が利用しやすい公共交通網の形成	鉄道駅との連携の維持・充実、インターネットの乗り換え案内等での検索対応、バス待ち環境の改善	町民アンケートの実施	—	—	R6分・分析中 R7分・実施予定
⑥公共交通の利用促進 ⑦運行経費の削減 ⑧適切な料金体系の確立 ⑨運転手の確保 ⑩収入の確保	高校入学予定者への公共交通利用案内、バスの試乗会の実施、お試し乗車券の配布やイベントでの公共交通PR、免許返納者への利用促進策実施	既存データの整理	R5実績：84百万円 (計画延長した際に見直し) 町負担額は範囲内であるため「達成」	輸送人員が減少しており、町負担額も減少していない。費用負担を抑えるため、運行形態や運行方法、経路など利便性向上につなげ運賃収入の確保を目指す。	
⑪地域で交通を考える・支える体制づくり ⑫地域の商業施設等との連携 ⑬福祉、教育、NPOなどとの連携 ⑭地域、交通事業者、行政の連携、役割の明確化	八百津町地域公共交通協議会の継続的な開催、公共交通網形成計画のPDCA実施、町民への公共交通利用の啓発	既存データの整理	R5実績：67,630人 利用者数大幅に減、目標達成できず	地域代表者や近隣市町の公共交通部局、交通事業者と情報交換・情報収集を行い、改善を図りたい。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付し